

# 「定常型社会」を設計する

～持続可能な福祉社会へ～

橋本 浩二

、「定常型社会」とは？

- ・ 「ゼロ成長」社会
- ・ 「持続可能な福祉国家 / 福祉社会」

、「定常型社会」までのプロセス

(1) 二つの対立軸 - 富の成長と分配

- ・ 「福祉国家」と「経済成長」との関係
- ・ 「大きな政府」と「小さな政府」との対立
- ・ 「成長(拡大)志向」と「環境(定常)志向」との対立
- ・ 「社会保障政策」と「環境政策」との統合

(2) これからの日本の社会保障

- ・ “ インフォーマルな社会保障 ”
- ・ 「個人のライフサイクルを座標軸とする社会保障」
- ・ 「医療・福祉重点型」の社会保障に再編
- ・ 「税」の財源について

(3) 社会保障と個人の自由

- ・ 「個人の機会の平等」とは何か？
- ・ 「潜在的な自由」とは
- ・ 社会保障とは、自由の実現のためにある制度である

(4) 社会保障と環境政策の統合

国の政策(ナショナル)レベル

- ・ 「社会保障財源としての環境税」という政策
- ・ 企業行動を「労働生産性重視から資源効率性重視」へ

地域(ローカル)レベル

- ・ 地域レベルにおいて「自然 - コミュニティー - 経済」が一体となった  
自立的システムへの試み

## 地球(グローバル)レベル

### (5) 政党に求められること

- ・ 「定常型社会 = 持続可能な福祉国家」のビジョン
- ・ 各政党による「理念と政策」の提示
- ・ 「価値の選択」をめぐる議論

### 考察

欧州では 18 世紀の産業革命以後、日本では明治維新(1868 年)以後、産業が発展し、経済が急速に成長しました。特に日本では第二次世界大戦後、経済は飛躍的成長を遂げた。しかしその成長とは裏腹に、多大な犠牲を払いました。例えば水俣病などの深刻な健康被害を伴う公害事件が多発し、「公害先進国ニッポン」とまで呼ばれるようになりました。まさに高度経済成長時代が生み出した負の遺産といえます。さらに、日本という国は自力で民主主義を勝ち取った国ではなく、与えられた民主主義なので、欧米のように社会保障政策などの重要な政策はあまり表に出ず、予算案などにもっぱら焦点が当てられ、政治家は政治屋と化し、中央省庁は省益を追い求め、民間は甘い蜜を吸おうと利権にがんじがらめになり、さらには政・官・財の癒着、無駄な公共事業の乱発、それに伴う大量の赤字国債・環境破壊。

これを打破するためには、この論文で述べられているとおり、明確なビジョンを持ち、日本には資源がないということを自覚しつつ、環境そのものへの共通認識を個々が十分に理解し、それを行動に移さなければならないと思いました。